

参議院議員選挙の敗戦を振り返って

日本理学療法士連盟
会長 半田一登

今回の敗戦の責任は連盟会長たる私にあります。一生懸命に頑張った連盟会員及び支援をいただいた協会員に深くお詫びをいたします。

日本理学療法士協会では理学療法士の職域の維持拡大、処遇の改善等多くの政治活動を必要としています。その政治活動をより効果的に行なうためには自前の国会議員を抱えることが一番有効です。しかし、公益社団法人である日本理学療法士協会では選挙活動を主体的に行なうことはできません。そこで選挙活動を行うことのできる連盟や後援会を作り、3度目の参議院議員選挙を戦いました。今回の敗北によって協会の政治課題解決が滞ることを懸念しています。

以下、今回の選挙における個別的課題について報告します。

1. 選挙違反の疑いについて

東京新聞で公職選挙法に抵触する可能性について取り上げられた誓約書は「公選法を遵守したうえで、連盟が立て替えた費用について返還する（要約）」ことを記載したものとなっており、公職選挙法違反に該当するものではありません。しかしこのような条項が誤解を招くとの指摘もあり、弁護士に相談し、上記趣旨をより明確にするために誓約書を改訂していたのにも関わらず報道されたので驚いています。

2. 連盟通常活動の不足

連盟ではルールに従った方法によって組織代表を選びました。その選出方法や過程及び結果について連盟会員には伝えてきたのですが、最大の支持母体である日本理学療法士協会会員への周知が不十分でした。連盟会員数が少なく、連盟に財力がないこともこの事態を招いた一因です。

3. 現職議員が組織代表になれなかった理由について

本来、現職議員を組織代表として選挙戦を戦うのが有効です。しかし、もっと大事なことは議員6年間の任期中に何を成したかです。紙面を使った国会報告、土日を使った会員への直接報告、施設巡回による会員の意見聴取等が大切です。また、組織代表から漏れたことを踏まえて、参議院議員選挙の全国比例選挙には立候補しないことを当時の秘書を交えて山口前議員と約束をしていました。この約束違反は想定外の出来事でした。

4. 選挙戦術について

今回の選挙では前回の選挙と同様に名簿集め、そして電話かけを中心に行ないました。平均年齢33歳の連盟及び協会会員の個人情報重視する志向性やオレオレ詐欺の蔓延を考えると有効な手段であったか疑問が残ります。